



神崎町立米沢小学校 学校だより 2023.12.22

# 大平台だより

Oohiradai Newspaper

No.10

お話美術館 2年 \_\_\_\_\_さんの作品



皆さんご存じのとおり、米沢小学校は、全校児童33名の小さな学校です。小さな学校のよさは何でしょう。逆に小さくて困ることは何でしょう。令和5年度がスタートしてからの8か月、他のもっと規模の大きい学校とどう違うか…いろいろと考えてきました。

校長としては、子どもたちや保護者の皆さんがとても身近で、学級の子どもたちと同じように関わることができることをとてもうれしく感じています。「一人の子が休めば、みんなで気に掛け、また、登校してくれば、よかったと胸をなで下ろす。子ども同士のいざこざがあれば、離れて見守りつつも、解決できそうにないときには、間に入り、導く。他の学校では、見過ごしがちなことでも、この学校では、見付けられ、丁寧な対応していくことができる。」こういったことにもよさを感じています。

PTA 集会では、多くの保護者の方が全体会にも参加し、真剣に話に耳を傾けてくれています。行事では、準備から後片付けまで、一緒になって、取り組んでくれる。保護者の手が足りなければ、草刈り隊のメンバーの方や地域の方が進んで手助けをしてくださる。「子どもたちのために、みんなが手を取り合って頑張っていきたい。」そんな気持ちが伝わってくるのも小さな学校ならではのことでと思います。

では、よくないことは何でしょうか。実をいうとあまり見当たりません。「大きな集団に入ったときに遠慮して意見が言えないのでは？」とか、「友達づくりが苦手になってしまうのでは？」いろいろと予想はできます。12月に、神崎中学校の体験入学があり6年生3名が参加しました。体験終わりの全体会で、中学校の先生から、子どもたちは感想を求められました。なかなか手が挙がらない状況で、一番先に挙手をして意見を言ったのは、本校の子でした。そばで見ていた私が、後でその勇気ある行動を褒めると、その子は「誰かが言わないといけないと感じた。」と言いました。小さな学校で学んできたからこそこのような気持ちももてるのかもしれない。

10月下旬から11月にかけて、池の錦鯉がたくさん死んでしまいました。夏の猛暑にも負けずに元気だったのでとても残念でした。1匹でも生き残ってほしいとの願いを込め、施設管理の川上先生が、池の水を全部抜いて掃除をしました。とても大がかりな作業でしたが、きれいになった池には、2匹の錦鯉が残りました。生き残ってくれて本当によかったです。ところが、寒くなってきたこともあり、近づいてもいつものように寄ってきません。広い池なのに、濾過器を通った水が流れ込むパイプの下に2匹がくっついてじっとしているのです。池に落ちた枯れ葉を取るために、網を入れると、ぴったりとくっついて泳ぎ出したかと思うと、くっついたまま泳いで、また、なかよくもとの場所に戻ります。寄り添って泳ぐ姿が何とも微笑ましく感じられました。川上先生によると、あの場所は、水の流れがなく、暖かで安心できる場所なのだそうです。



【寄り添う2匹の錦鯉】

今日で2学期が終了しました。学校が子どもたちにとって温かく安心できる場所だったかなと振り返ります。ホワイトホールに「2学期ふりかえりアンケート」の箱を置きました。たくさんの子が返事をくれました。頑張ったことの欄には、勉強や算数、図工、体育、運動会、マラソン大会の他に「友達に優しくした」なども書かれていました。できるようになったことには、「英語が話せるようになった」「鉄棒の技ができた」「跳び箱で台上前転ができた」「算数の分数がわかった」「トイレ掃除が上手になった」など一人一人の達成感のようなものを感じることでできる言葉が並んでいました。

皆さんのお力添えもあり、子どもたちは元気に過ごすことができました。ありがとうございました。これからも学校が子どもたちにとって居心地のよい安全な場所になるよう職員一同精進いたします。

1月9日、元気が子どもたちに会えることを楽しみにしています。よいお年をお迎えください。

